



国際陶磁器フェスティバル美濃'20

INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL'20 MINO, JAPAN

9月18日(金)～10月18日(日) / セラミックパークMINO ほか

CERAMIC
VALLEY
Mino
Japan

国際陶磁器フェスティバル美濃とは？

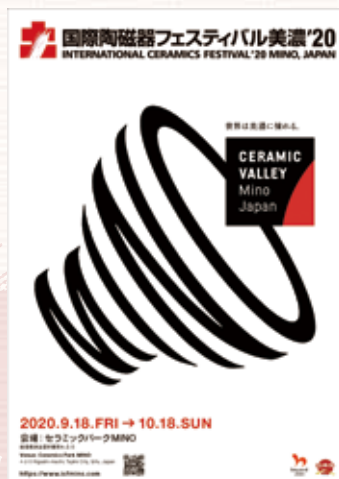
日本最大の陶磁器産地「東美濃地域」で3年に1度開催している「世界最大級の陶磁器の祭典」。「土

と炎の国際交流」をメインテーマに、陶磁器のデザインと文化の国際的な交流を通じて、さらなる陶磁器産業の発展と文化の高揚を目指しています。1986年に第1回を開催し12回目となる今回は、9月18日(金)から10月18日(日)の31日間、セ

ラミックパークMINOを主会場として開催します。

メインイベントである国際陶磁器展美濃は国際的に認知された陶磁器コンペティションで、今回は64の国と地域から約2,400作品の応募がありました。「やきもののゆくえ」をテーマとした世界中の作品が一堂に会す展覧会となります。

また、来場した方が美濃焼の歴史や魅力、地域の風土を存分に感じ、楽しむことができる、東美濃地域の産業・地域・文化に密着した事業を多数開催します。陶磁器の一大産地「セラミックバレー」と世界の陶磁器の展示、環境に配慮した「Re-食器」と地元食材を使った料理、本格的な茶室での呈茶サービスなどさまざまなイベントを開催し、皆さまの来場をお待ちしております。



▲開催ポスター

問 国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会事務局 赤塚 TEL 25-4111

4月の夜間在宅当番医

日曜日	当番病・医院名	住 所	TEL
1 水	仲西クリニック	明和町6	29-1181
2 木	笠原診療所	笠原町2837	44-2261
3 金	いちばらこどもクリニック	小田町5	24-3411
6 月	たじみ内科	広小路2	22-2333
7 火	伊藤内科	太平町3	23-6578
8 水	横田耳鼻咽喉科	太平町4	21-2133
9 木	おざき整形外科	太平町6	25-6101
10 金	林かつひこ内科・循環器科	明和町4	20-2002
13 月	水田クリニック	音羽町1	22-5222
14 火	おかざきまきこクリニック	幸町3	27-1200
15 水	タジミ第一病院	小名田町西ケ洞1	22-5131
16 木	いながけ医院	滝呂町17	45-0077
17 金	浜田・浅井医院	太平町1	22-0522
20 月	豊岡医院	豊岡町1	21-2868
21 火	はら内科クリニック	大畑町西仲根3	28-3223
22 水	サニーサイドホスピタル	小名田町西ケ洞1	25-8110
23 木	中村こどもクリニック	前畑町3	24-1717
24 金	林内科クリニック	栄町1	25-7755
27 月	多治見クリニック	音羽町2	22-5566
28 火	高羽クリニック	太平町3	23-5515
30 木	うすい整形外科	滝呂町12	43-3600

診療時間 19:00～21:30(受付は21:00まで)

●気象状況、諸般の事情により、急きょ休診となる場合があります。受診する場合は、当番医にあらかじめ電話で連絡してください

●夜間診察料が加算されます

問 保健センター 水野(祥) TEL 23-5025

5月の夜間在宅当番医

日曜日	当番病・医院名	住 所	TEL
1 金	岡山内科・消化器科クリニック	宝町3	21-1717
7 木	光ヶ丘クリニック	光ヶ丘2	21-0510
8 金	おおむらクリニック	宝町10	25-0166
11 月	うえだ整形外科	松坂町1	20-2022
12 火	ふくい内科クリニック	松坂町1	20-0660
13 水	倉知眼科	平和町7	22-5515
14 木	夏目整形外科医院	錦町3	23-4720
15 金	わたなべクリニック	明和町5	26-8666
18 月	たじみ内科	広小路2	22-2333
19 火	まえかわペインクリニック	広小路2	28-2010
20 水	前川ファミリークリニック	錦町1	22-0682
21 木	あいざわ整形外科	平和町7	23-3700
22 金	たじみ陶都眼科	前畑町4	44-9777
25 月	ももいクリニック	前畑町5	28-1011
26 火	たかだアレルギーとこどものクリニック	白山町5	28-1101
27 水	まもる耳鼻咽喉科	白山町1	22-8733
28 木	幸クリニック	幸町7	20-2055
29 金	のむら・笠原クリニック	笠原町字権現2200	45-1020

土曜日と日曜日、祝日の休日急病診療

時 土曜日…19:00～21:30(受付は21:00まで)
日・祝日…13:00～17:00(受付は16:30まで)

診療場所 社会医療法人厚生会 多治見市民病院
救急外来 診察室

●あらかじめ電話で連絡してください

TEL 22-5211

※診療時間外は下記連絡先へ問い合わせください

救急医療情報センター TEL 23-3799

市民病院 だより

地域と共に考える医療

☎ 市民病院 TEL 22-5211



多治見市民病院
病院長
今井裕一



早いもので病院長として着任して丸3年になります。1年目は職員の「教育」を主軸にシステムを改革しました。2年目は、それぞれの診療科の特徴と専門性を構築し、閉鎖していた病棟26床を運用開始しました。3年目は、臨床研修病院基幹型として初めて初期臨床研修医を受け入れました。医師数も当初22人でしたが、2年目28人、3年目34人となり、今年4月から、医師35人の予定です。

「市民公開セミナー」も年3、4回開催し、毎回100人前後の参加をいただいています。夏休みには「子どもメデイカルスタッフ体験ツアー」も3年間開催してきました。毎回20数組の参加があり、将来、医療従事者になるきっかけになれば幸いです。さらに、多治見市医師会の先生方とも協力し

て開放型病床（かかりつけの先生と一緒に診療するスタイル）も開始しています。このように市民の皆さまと交流し、一緒に作り上げる病院を目指しています。

入院患者数は4年前は年間4万6千人でしたが、1年目5万6千人、2年目6万人、3年目6万5千人と順調に増加しています。ところが、昨年9月26日に厚労省は突然「病院再編・廃止」すべき病院として全国424病院を公表し、当院もその中に入りました。厚労省が根拠としたデータは2年以上古いものでさらに県立多治見病院と近接していることが理由でした。早速、古川市長と記者会見を開き、厚労大臣宛に「公開質問状」を提出しました。2カ月後に来た回答は、質問に真摯に答えない内容であり、再度記者会見を行ない抗議しました。

市民の皆さまからいろいろなご意見をいただいています。年間約6万人が入院する病院機能を県立病院1つで代替することは現状では不可能です。そのような事態になれば県立病院の職員が疲弊して、東濃地区全体の医療体制が崩壊します。当院はようやく軌道にのりはじめましたが、これまで以上に、多治見市医師会の先生方と市民病院の連携に加え、東濃地区の高度医療の中心である県立病院との良好な連携によって市民の健康と安全に貢献したいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

教育最前線！

インクルーシブ教育

☎ 教育相談室 後藤 TEL 23-5942

多治見市では、インクルーシブ教育を推進しています。「障がいの有無及び程度に応じ、同じ学びの場において共に学ぶことを追求するとともに、個別的教育的ニーズのある子どもに対して、最も的確に応える指導・支援を行う教育」と目指す方向を定めており、6つの基本施策によって具現化を目指しています。目指す方向の後半部分に書かれている「個別的教育的ニーズのある子どもに対して、最も的確に応える支援・指導を行う教育」の部分を取り上げたいと思います。

4月になり、「この1年は、こんなことを頑張ってみたい」「こんな力を伸ばしたい」といった思いを抱きながら、1年後の自分の成長をイメージしている子どもたちが多くいることでしょう。では、「小学校や中学校、高校を卒業する時には、こんなことができるようになっていたい」、「30歳になった時には、こんな生活をしていたい」といったように、5年後や10年後、20年後のイメージはあるのでしょうか。将来の姿をイメージし、自立に向けた力を付けていくために、小学校や中学校

では、どのような学びの場がよいのか、その学びの場では、どのような支援を行っていくことがいいのかを考えていくこともインクルーシブ教育の柱の一つになります。具体的な支援として、学校現場ではユニバーサルデザインの授業作り、ICTの活用などを進めています。

これを機会に、「こんな力を伸ばしたい」「こんなことができるようになるには、どうすればいいのだろうか」と、将来の姿を本人も交えて家族で話題にしてみてもどうでしょうか。「そんな先のことまで分からない」と思われる方もいるかもしれませんが、そんな時は遠慮なく、園や学校の先生、教育相談室に声をかけてください。一緒に考えていきましょう。そして、笑顔であふれ、夢いっぱいの学校生活になるように、学校も私たちも応援をしていきます。



尼ヶ根古窯は16世紀後半、千利休が活躍していた桃山時代に多治見市小名田町で操業していた大窯で、初期の瀬戸黒が焼かれた窯として知られています。

瀬戸黒以外にも、尼ヶ根古窯ではさまざまな製品が焼かれました。皿や徳利、碗、播鉢などの生活雑器に加え、茶碗、茶入、水指、建水などの茶の湯で使用するための陶器や、仏花器、香炉なども生産されました。



▲灰釉皿(尼ヶ根古窯)個人蔵



▲鉄釉皿(尼ヶ根古窯)個人蔵

尼ヶ根古窯の遺物を見ると、同種の製品でも器形や釉薬のバリエーションがあるものがあり、中には二度焼きをした製品もあります。これらは少量ずつ見つかったため、製品ではなく試験的に焼かれたもので、新しい技術やデザイン

を開発していたのではないかと考えられます。

大窯では釉薬を掛けた陶器が主に焼かれており、尼ヶ根古窯でも灰釉と鉄釉、鉄錆釉を使用した製品が多く生産されました。灰釉は植物の灰に粘土を加えて作る釉薬で、鉄釉は鉄錆釉はガラス成分の少ない鉄釉です。



▲鉄錆釉仏花器(尼ヶ根古窯)個人蔵

また、これらの釉薬を組み合わせたさまざまな色合いの製品が焼かれました。たとえば鉄錆釉を塗った上から灰釉を掛けた製品では、鉄錆釉の濃さや灰釉の掛け方によって黄瀬戸、黄天目、菊花天目などが作られました。

本展では尼ヶ根古窯で作られたさまざまな製品や釉薬についても実物とともに展示しています。ぜひ本展でご覧ください。

土岐川観察館の自然だより

青と緑の物語

土岐川観察館 TEL 21-2151

野鳥の繁殖行動などに異変

令和元年から2年にかけての冬は暖かく、ツグミ、カシラダカなど冬鳥が来ない、ナンテン、ピラカンサの実を、ヒヨドリなどが食べにこない、など例年なら見られることが見られない冬でした。繁殖行動にも、温暖化の影響が出ているかのような事例が令和元年に多治見市内でも出ています。令和元年6月に光ヶ丘で、チョウゲンボウの幼鳥4羽を確認し

冬のツバメの子育て・越冬観察記録

期間 令和元年12月5日(木)~令和2年2月24日(月)

場所 多治見市平和町

12月5日(木)	5羽の幼鳥の子育て確認
12月11日(水)	最後の幼鳥が巣立ち(呼び名を若鳥に)
12月12日(木)	若鳥が1羽行方不明 若鳥4羽になる
12月16日(月)	若鳥3羽になる
12月18日(水)	若鳥2羽になる
12月24日(火)	若鳥1羽になる
1月12日(日)	若鳥0羽になる この日から成鳥(親鳥)2羽の越冬が始まる
2月24日(月)	成鳥2羽が戻らず越冬が終わる

ました(繁殖場所は未確認)。本来チョウゲンボウは秋から冬にかけて多治見市内で確認される野鳥です。12月には平和町で、ツバメが5羽のヒナの子育てをしているのを確認しました。岐阜県では初めての事です。ツバメは本来3月に多治見に飛来し、子育てをして10月には東南アジアは渡ると言われています。子育てをしていた親ツバメは、令和2年2月24日まで越冬しました。



▲チョウゲンボウ



▲越冬したツバメ

(日本野鳥の会岐阜 富田増男)



2月16日(日) ⑥ 環境活動発表会では、身近にある疑問を掘り下げて、長期にわたり検証・分析した結果などが報告された。
⑦ 体験コーナーの木工教室。鉋の使い方を教わりマイ箸を作る女の子。



2月10日(月) ⑧ 応募総数3,355件のうち、小学生部門10件、中学生部門8件、高校生部門1件がそれぞれ選ばれた。

2月13日(木) ⑨ 地域連携室の運営は、地域と関係の深い団体や組織(市役所、商工会議所、銀行、研究所など)と共に行う。



⑨ 名古屋工業大学との連携強化

国立大学法人名古屋工業大学先進セラミックス研究センター駅前地区に新たに設置された「地域連携室」の開所式が行われました。これまで地域の窯業界との交流を進めてきた同センターは、窯業技術の側面だけでなく、新産業創設の支援や開発の拠点施設として貢献します。

⑧ ちょっとした疑問を実証

第14回「科学の芽」で大賞を受賞した坂崎希実さん(根本小6年生)と東裏昂士さん(北陵中3年生)が市長を表敬訪問しました。同賞は、ノーベル賞受賞者の朝永振一郎博士の功績を記念し、小・中学生と高校生の優れた科学実験や自然観察のレポートを表彰するものです。

⑥⑦ 環境フェア2020

環境問題を考えるイベントが「広げよう～自然とエコのまち 多治見」をテーマにヤマカまなびパークで開催されました。学生による自由研究・環境学習の発表や、環境市民団体、企業、学校のパネル展示、体験コーナーなどが設けられ、家族連れでにぎわいました。



2月14(金)～16日(日) ① 卒業制作展出品作品の窯出しの様子 ② その年度の卒業制作において特に優秀な制作者に贈られる卒業制作賞に輝いた長井愛依さんの作品「飲む」。作者の理想とする日常的な卓上の風景が丁寧に表現されている点などが評価された。
③ 出品者による作品説明に聴き入る来場者



2月19日(水) ④ 協定式に臨む住職の上田さんと第22区区長の岩井正樹さん

2月10日(月) ⑤ 約20メートルほど駅舎側に移転した駅前交番は、鉄筋コンクリート造2階建て



⑤ まちに調和した交番

駅南地区市街地再開発事業に伴い移転した駅前交番の竣工式が行われました。市長は「駅周辺の安全を守る要として、笑顔と真心でこれからもよろしくお願いします」と祝いの言葉を述べました。同交番には、東海三県で初となる透明遮蔽版や相談室が新たに設置されました。

げんしょうじ

④ 元昌寺が緊急避難場所に

元昌寺(根本町)と第22区との間で災害時緊急避難場所の使用に関する協定が結ばれ、根本地域に災害などの警戒情報が発令された場合、根本交流センターと根本小学校に加え元昌寺が緊急避難場所となりました。住職の上田宗演さんは「地域の役に立ててうれしい」と語りました。

①②③ 土で個性を表現

セラミックパークMINOで「多治見市陶磁器意匠研究所卒業制作展2020」を開催しました。第61期デザインコース・技術コースの6人と第16期セラミックスラブの13人によるこれまでの研修の成果を発表する作品展です。来場者は作者の作品説明を熱心に聴いていました。



スマートフォンで
広報たじみを
持ち歩き！

【編集発行】多治見市役所 企画部 秘書広報課
〒507-8703 岐阜県多治見市日ノ出町21目5番地
TEL 0572-22-1111 FAX 0572-24-3679
E-mail hisyokoho@city.tajimi.jp <https://www.city.tajimi.jp/>



多治見市緊急メールに登録してください
携帯電話に緊急情報を送ります
<https://service.sugumail.com/tajimi>



▲店内には小林さんが国内はもとより海外(イギリスやフランスなど)で買い付けてきた商品が並ぶ。窓外の本町オリベストリートの古い町並みと重なりタイムスリップをしたよう。



▲取材にうかがった日は2階で「カリグラフィー教室」が開かれていた。作家の浅岡千里さんが丁寧な指導をしていた。この他、アクセサリーや洋裁などの教室も定期的に開いている。



▲「多治見には独自の文化があるのに、地元の人たちはそれを特別なことと思っていない。市外から来た私だから、古いモノが残る多治見の魅力に気付けるのかも」と語る小林さん。

SPECIAL TALK

輝く現在

人とモノがつながる
お手伝いがしたい。

小林彩子さん

イリゼ アンティーク
IRISE antique



多治見にお店を持つなら、本町オリベストリートがいいと思っていました。明治初期から昭和初期にかけて建てられた商家や蔵など、美濃焼文化に培われた多治見の歴史を色濃く残す独特な魅力があるからです。好機が巡ってきたのは今年の7月。通りのほぼ中間に位置する古民家を借りることができ、9月に「IRISE antique」を春日井から移転オープンさせました。

現在、「IRISE」ではアンティークとは関係なくクリエイターによる作品展示や、ワークショップなどを定期的に開催し、それをSNSで世界に発信しています。ここを介して人とモノがつながるお手伝いがしたいと思ったからです。この取り組みを企画にまとめ、「第2回たじみビジネスプランコンテスト(Tajicon)」に応募したところ、最高賞のまちなかグランプリを受賞することができました。これを機に、特に女性の創業を支援する仕組みづくりを確立していきたいと思っています。

アンティークの魅力は同じものが無い、唯一無二なところ。そして、その国や地域の文化や歴史を反映しているのが特徴です。私が本町オリベストリートにこだわった理由もそこにあります。古い建物はまちの魅力につながります。残せるものはリノベーション(改修)をしてでも残していきたい。将来はそんな活動もしていきたいと考えています。

人口と世帯数の動き

2020年3月1日現在



総人口

110,070人 (前月比 -103人)

男 **53,571人** (前月比 -47人)

女 **56,499人** (前月比 -56人)

世帯数

46,942世帯 (前月比 -1世帯)

文化財みつけた

大藪のシダレザクラ

大藪町



大藪のシダレザクラは神明神社の境内にあり、樹齢がおよそ160年といわれる貴重な古木です。平成30年度から3年掛けて樹勢回復事業を行っています。このシダレザクラから株分けして大きく成長した若木2本とともに、4月上旬には見事な花を咲かせ、訪れる人を楽しませています。